

秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

地域支援だより

平成29年10月20日

第77号

秋田県立秋田きらり支援学校  
地域支援部

# きらりNet

## 第55回 東北地区肢体不自由教育研究大会（秋田大会）を開催しました！！

平成29年度インクルーシブ教育システム構築事業「病弱・肢体不自由教育支援事業」

- 日 時 平成29年9月29日（金）9：00～15：40
- 大会主題 「一人一人が生きる肢体不自由教育の在り方を求めて」  
～児童生徒の主体性を育む授業づくり～

### 公開授業

- ◎小学部 理科「とじこめた空気と水」※裏面参照
- ◎小学部 生活単元学習「にっこりはいたつや②」

### ◎中学部

自立活動  
物語の世界へ④  
ふしぎなボジャビのき



### ◎高等部

総合的な学習の時間  
交流を深めよう～  
秋田南高校との交流②



### 分科会

分科会①  
公開授業を基にした  
ワークショップ型  
グループ協議



分科会②  
東北各校の実践発表  
による話題提起



### 講演会

講師 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 分藤賢之 氏  
演題 「新学習指導要領等の実現に向けて」

◇総則の各節のポイントをまとめ、説明いただきました。幾つか抜粋して掲載します◇

- 「育成を目指す資質・能力」の明確化（「生きる力」を具体化し、三つの柱で再整理）
  - ①何を理解しているか、何ができるか（「知識・技能」の習得）
  - ②理解していること・できることをどう思うか（「思考力・判断力・表現力等」の育成）
  - ③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（「学びに向かう力・人間性等」の涵養）

### ●学習評価…観点別学習評価を3観点に整理

「知識・技能」

「思考・判断・表現」

「主体的に学習に取り組む態度」

### ●自立活動の目標設定に至る手続きについて

・障害が重複している、あるいはその障害が重度であるという理由だけで、各教科等の目標や内容を全く検討しないまま、安易に自立活動を主とした指導を行うことのないように留意する必要がある。

〈文責：菊地真理〉



# ★きらりの実践 その④ 小学部 理科

教科を主とした学習グループ

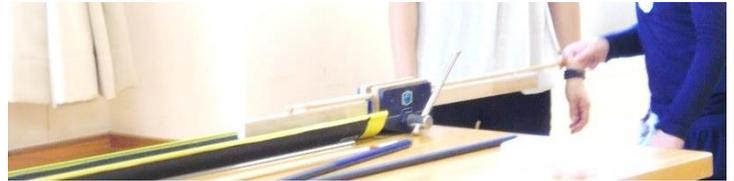
(小学部 4年) の実践

空気鉄砲の実験

小学校4年生の理科「とじこめた空気と水」という単元で行った空気鉄砲の実験において、ねらい達成の手立ての一つとして、以下のポイントを工夫しました。

## ポイント① 片手で操作～万力の利用

空気鉄砲を片手でも操作できるよう、万力を机に固定し、鉄砲を挟みました。



## ポイント② 手応えを実感～児童の力に合った鉄砲の筒の長さとおさ

空気鉄砲は、押し棒をおしたときの手応えを実感することが大切です。操作しやすくて手応えが小さすぎると空気の存在を実感できません。手応えが大きくても児童が一人で押し棒をおすことができないので、空気の存在を実感できません。

筒の長さとおさ、鉄砲玉の素材や大きさを比較し、児童が一人で操作して鉄砲の中の空気の手応えを実感できるようにしました。



## ポイント③ 結果を分かりやすく

玉が飛んだ距離が分かりやすいよう、樋を活用し、玉の通り道を一定にしました。 〈文責：慶長美紀子〉

## 教育専門監のコーナー

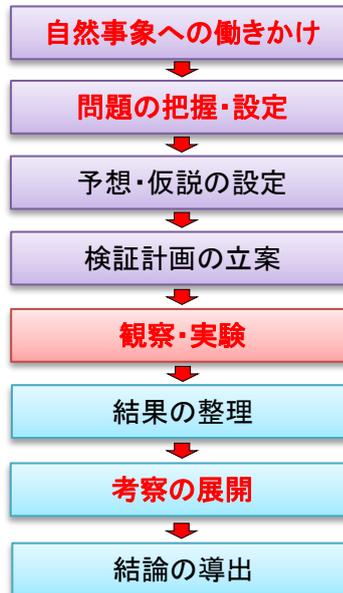
### 《主体性を育む観察・実験の工夫》

#### 【教材・教具の工夫のポイント】

- 子どもが適切に操作することができるか
- 過程や結果を的確に記録できるか
- 子どもの意識がつながり、子どもの目的が達成できるか
- 習得した内容を活用して学びを深化させることができるか

先日の東北地区肢体不自由教育研究大会の教科指導の分科会で、「入院生活を送る生徒の主体性を育む理科指導の工夫」が発表されました。その実践では、ポリエチレンの袋を使った「水中ではたらく圧力」の観察・実験の取組と思考を促す可視化の工夫、さらにイメージ図、モデルなど表現方法の工夫が紹介されました。具体的な体験と主体的な問題解決を通して得られる自然の事物・現象の理解、その達成に向けた、各校の学び合いの工夫、参考にしたいものです。

### 《問題解決の過程の重要性》



理科は、自然の事物・現象に親しみ、観察、実験などの「体験」を重視する教科です。

生活や動きに制限のある児童生徒が「なんだろう」「なぜだろう」「どうなるのだろう」「どうすればよいのだろう」という様々な問いを立て、自ら問題解決していくためには、自然事象との豊かな出会いが大切となります。

小学部の理科の実践は、子どもが自らの諸感覚を通して自然事象を「体感」し、観察・実験により「体験」を重ね、身体的な技能と豊かな表現、そして、科学的な見方や考え方を身に付けていくための教材・教具の工夫といえます。

『小学校理科「問題解決」8つのステップ』村山哲哉著 より

〈文責：二階堂 悟〉

秋田きらり支援学校に相談・見学の希望がありましたら、下記まで御連絡ください。



教頭 伊藤 敏博 地域支援部 佐藤 忠浩

住所：〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢 3 番 127

E-mail: kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018 (889) 8573 FAX：018 (889) 8575

「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>